

## 平成 23 年度 第 2 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

### 1 開催日時

平成 23 年 10 月 26 日（水）14：00～16：00

### 2 開催場所

札幌市役所 14 階 1 号会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小笠原委員、小山委員、山下委員

#### (2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局工事契約担当課長、財政局契約管理課長、財政局技術管理担当課長、財政局建築検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 9 名

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 委員長あいさつ

#### (3) 報告事項

ア 工事評定結果について（平成 22 年度）

イ 工事等発注状況について（平成 23 年度 9 月末）

#### (4) 抽出工事等の決定・審議

#### (5) 意見交換

#### (6) 閉会

### 5 質疑応答

#### (1) 工事評定結果について（平成 22 年度）

（小山委員）

工事成績点の最高点と最低点のマックスの値を教えてください。

（札幌市）

理論的には、0 点から 100 点の間となる。

#### (2) 工事等発注状況について（平成 23 年度 9 月末）

（小山委員）

昨年度と比べて工事がふえている理由を教えてください。

（札幌市）

予算ベースで約 170 億円ふえているので、昨年度と比べると発注される工事は多くなると思われる。

(岡田委員)

くじ引き入札が大幅にふえているが、これによって市の職員の業務量がふえることはあるのか。

(札幌市)

電子入札システム上でくじ引きを行うため、特に業務量がふえるわけではない。

(蟹江委員長)

くじ引き入札がふえることで、最低制限価格を下回り、失格となるケースがふえる傾向にあるのか教えてもらいたい。

(札幌市)

工事に関しては、特にその傾向が顕著となっている。業務の場合は、積算が定型的ということもあり、失格がふえるというよりは、最低制限価格と同額でのくじ引きとなる傾向にある。

(山下委員)

電子入札システムを使ってくじ引きを行うということだが、その結果、ある特定の業者が同時に何本も落札してしまうケースは発生しないのか。

(札幌市)

業者が入札した時間のミリ秒を使って、くじ引きを行うシステムになっているので、特定の業者に固まることはないと認識している。

(蟹江委員長)

この方法について、業者から質問や不満は寄せられていないのか。

(札幌市)

ないと認識している。

(蟹江委員長)

平均落札率は、他の自治体と比べてどうか。高止まりになっていないのか。

(札幌市)

はっきりとした数字は持ち合わせていないが、札幌市が他と比べて極端に高いということはないと認識している。

### (3) 抽出工事等の決定・審議

#### ア 篠路西中学校現況調査測量

(山下委員)

測量については、参加業者数が減っているが、全業種で見た場合は、それほど変わっていないのはなぜか。

(札幌市)

測量については、AをAとBの2つのランクに分けたことで競争が緩和されているが、地質調査と設計については、ランクを分けることはしていないので、逆に競争性が増した結果だと思われる。

(山下委員)

地質調査や設計についても、測量と同様の措置をとる考えはないのか。

(札幌市)

今のところ測量と同様の措置をとるほどではないと考えている。また、業界からもそのような要望が出ているわけではない。

(小山委員)

測量のような発注時期の平準化を地質調査で行っているのか教えてもらいたい。

(札幌市)

発注件数が少ないので、特に配慮はしていない。

(岡田委員)

規模の大きな業者が会社分割することで、入札に参加できる機会を多くするというケースはあるのか。

(札幌市)

そのようなケースがどれくらいあるのか把握していないが、現実的にそういった対応をする業者も中には存在するかもしれない。

### イ 北白石小学校・北白石中学校改築工事（主体工事）

(小山委員)

失格判断基準を適用したことで、安く発注できたものを高く発注していることになるのではないかと。

(札幌市)

大規模な工事になると相当な重層構造になる。そうすると下請業者へのしわ寄せとか、労賃のダンピングが懸念されるので、このようなことに配慮し、失格判断基準を設けたところである。

(小山委員)

価格順1位～13位までの業者が、直接工事費、共通仮設費、現場管理費、一般管理費のどの費目に引っかかって失格となったか教えてもらいたい。

(札幌市)

まんべんなく、どの費目にも引っかかっている状況である。

(岡田委員)

入札に参加した全ての業者が失格になってしまうことは起こり得るのか。

(札幌市)

起こり得る。この案件はまさにそのケースで再告示した案件である。

(蟹江委員長)

全社が失格した場合は、もう一度入札をやり直すのか。

(札幌市)

入札の手続きとしては1からやり直すことになる。

(山下委員)

失格判断基準については、札幌市が独自に設けているのか。例えば、海外の業者が入札に参加してきた場合に、この基準を説明することは難しいのではないかと。

(札幌市)

国や北海道もこのような基準を設けている。また、失格判断基準を適用することについては、告示の際に明示しているので、入札に参加する業者も予測できることであり、

問題ないと考えている。

(山下委員)

この基準は、自治体毎に設定できることになっているのか。

(札幌市)

低入札価格調査の一環として、失格判断基準を設けることは問題ないと総務省にも確認している。この件に関しては、市議会でも議論があった。

#### ウ 北区新琴似地区外面腐食管改良工事その4 NO. 5-1111

(岡田委員)

今回は技術点で逆転したケースだが、もっと金額差が開いている場合には、同じような結果になるのか。

(札幌市)

その差が逆転できる範囲であれば結果は同じとなる。

(岡田委員)

総合評価点と同点だった場合は、落札者を決めるにあたって、優先される項目があるのか教えてもらいたい。

(札幌市)

特に優先される項目というのではない。仮に総合評価点と同点だった場合は、くじ引きによって落札者を決定することになる。

(蟹江委員長)

総合評価は、他の入札方式と比べて入札参加業者が少ない傾向にあるのか教えてもらいたい。

(札幌市)

他の入札方式と比べると少ない傾向にある。

各業者は、自社や他社の点数がどのくらいなのか、ある程度は把握していると考えられる。このため、そもそも入札に参加してこないのではないかと推測している。

## 6 意見交換

各委員から寄せられた主な意見は次のとおりである。

- ・ 工事評定結果を分析する時には、最高点や最低点だけではなく、ちょうど真ん中にある中位点を抑えておくことも必要ではないか。
- ・ 入札・契約等審議委員会として、重視するポイントを絞っていくことが必要。
- ・ 過去の実績を評価する方法は、優良業者にチャンスを広げる一方で、新規の参入業者を排除する面もあるので、バランスを考えながら実施していくことが必要。